

在宅ホスピスケアセンター



近藤内科病院は20年来訪問看護を中心に在宅療養を支援してきました。多くの患者様は住み慣れた在宅での療養を希望されます。私たちはこの希望に応えるために、訪問看護ステーションを充実させ、新たに居宅介護支援事業所、訪問介護ステーション、デイサービス、グループホームを設立いたしました。また小規模多機能施設・柿の木の家、デイホスピスを設立予定です。

各施設と病院が連携し、皆様の在宅療養をお手伝いいたします。

在宅ホスピスケアセンター 中庭

在宅ホスピスケアセンター長

緩和ケア病棟が開設され3年が経ちました。医療スタッフの努力はもとより、ボランティアの方々、患者・家族の皆様を支えられての3年間でした。共に喜び、共に泣き、共に生きることで私達自身が多くのことを学ばせていただきました。その一つが自分らしく生きることの難しさと喜びです。病名を告げられ、病気と闘い、病気を持ちながら自分らしく生きることは大変なことだと学びました。

緩和ケアは癌と診断された時から始まります。緩和ケア病棟は、症状のコントロールを行いながら、食事や入浴を楽しまれたり、家族との時間を過ごしたり、趣味の読書や絵を楽しまれたり、その人らしく生きることを支える場所だと思います。ご自分の生きてきた時間を振り返り、そこからまた生きるということを支えられればと思います。人間の限りある時間を過ごす場所として、その人らしさを支える場所として、緩和ケア病棟だけでなく、在宅があっても良いのではないのでしょうか。ご自宅にいるように過ごしてくださいと伝えても、どんなに美味しい食事を準備したとしても、どんなに素晴らしい環境を提供したとしても、病院は病院であり、患者は患者でしかありません。家族の声が聞こえ、見慣れた風景があり、人が人として生きられる場所が在宅ではないのでしょうか。

9月25日、在宅を支援するという目的のもと、在宅ホスピスケアセンター（わかば訪問看護ステーション・わかば居宅介護支援事業所・デイサービスセンターわかば・グループホームわかば・ヘルパーステーションわかば）が開設されました。また、癌患者様の在宅支援として、柿の木の家・デイホスピスも開設準備を行っています。患者・家族の皆様が在宅を希望すれば、在宅を支えることが出来る、少しでも希望に沿うことが出来るシステム作りをしていきたいと考えます。患者・家族の皆様の一一人の声を大切に、人と人がふれあい、共に喜び、心のこもったケアが行えるように努力していきたいと思っております。

まだまだ未熟な私達ですが[ホスピス徳島]での多くの出会いと別れに感謝し今後も努力していきたいと思っております。

在宅ホスピスケアセンター長 富永恵美子

近藤内科病院に関する情報

- 近藤内科病院ホームページ <http://www.kondo.hp.com/>
- ホスピス徳島に関する相談 地域連携室長 富永恵美子・医療ソーシャルワーカー 新田妙子（088-663-0070）

近藤内科病院からのお知らせ

●健康教室

1月28日（土）14：30～16：00 「高脂血症について」講師：吉本勝彦（医師）

●インフルエンザ予防接種

インフルエンザの最も確実な予防は、流行前にワクチン接種を受けることです。特に高齢者の方は是非接種してください。インフルエンザワクチンは接種してから実際に効果を発揮するまでに1～4週間かかると言われています。流行期間が12月～3月ですから11月中に接種を終えておくことにより効果的です。

当院での接種料金は3,550円となります。

徳島市に住民票のある方で65歳以上の方は手続きを行えば1,800円で接種することができます。詳細については当院事務受付もしくは徳島市保健センターへお問い合わせください。



近藤内科病院 緩和ケア病棟

院長あいさつ

2002年4月に[ホスピス徳島]を開設し、あっという間に3年が経過しました。徳島では初めての緩和ケア病棟でもあり、市民の皆様から私ども[ホスピス徳島]に期待と温かいご支援をいただきました。また医師会の先生方、徳島大学病院・徳島赤十字病院・徳島県立中央病院・徳島市民病院などとの病診連携がスムーズに行われており、おかげさまで[ホスピス徳島]は地域社会での癌のケアに重要な一翼を担うことが出来るようになりました。

この3年間、スタッフは朝早くから夜遅くまで無我夢中でホスピスケアに取り組んできました。この経験の中で様々な工夫やスタディを積み重ね、これらの成果や貴重な経験を全国大会や学会で報告してまいりました。医師・看護師・管理栄養士を中心に献身的にホスピスケアに取り組むことで貴重な経験をする機会を与えていただいた多くの患者・家族の皆様へ改めて感謝いたします。

2005年9月、緩和ケア病棟を3年間運営した結果、今後は在宅でのホスピスケアに取り組もうと考え、このたび在宅ホスピスケアセンターを開設いたしました。在宅ケアは近藤内科病院開設から22年間の間、訪問看護を中心に行われており、我々は入院と違って在宅では患者・家族の皆様のQOLが随分高いことを実感しておりました。在宅ホスピスケアセンターは末期の癌患者様の家に帰りたいという思いに応える施設です。さらに、今後の癌治療の進歩により、癌患者様の在宅での生活は随分長くなると予想され、癌患者様のQOLの維持・向上には在宅ホスピスケアはどうしても必要で重要なケアになると思います。

9月に開設した在宅ホスピスケアセンターは、柿の木の家・デイサービスセンター・デイホスピス・グループホーム・訪問看護ステーション・訪問ヘルパーステーションからなっております。このセンターと[ホスピス徳島]・急性期内科病棟は癌の治療から緩和ケアまで総合的に癌に取り組むシステムになります。

今後、我々医療法人若葉会は、いつでもどこでも誰にでもホスピスケアを提供するという方針で在宅ケアに取り組みます。

近藤内科病院 院長 近藤彰

緩和ケア病棟長

徳島県における平成14年の癌による死亡者は2,260人であり、その内[ホスピス徳島]における死亡者数は70人、わずか3.1%にしかすぎません。これは全国的にみてもホスピスでなくなる方の割合は約3%と同様の状況です。

今後の課題として、ホスピス徳島のさらなる充実のためにホスピス専門ナースの養成、緩和医療専門医の増加をはじめ、精神的ケアの専門者、ボランティアの募集を行うこと、さらに在宅ホスピス・緩和ケアの推進を目指すことなどがあります。在宅療養を可能にするためには地域の診療所などとの病診連携、訪問看護ステーションとの連携も必要です。現在、[ホスピス徳島]では柿の木の家、デイホスピス、デイサービス、訪問看護・ヘルパーステーション、グループホームを目指した組織作りを行っています。

[ホスピス徳島]でお受けできるのはわずか3%にしか過ぎませんから、その他の多くの末期癌の方は一般病院で最期の時を迎えているわけです。ホスピス・緩和ケアの一般医療への普及も重要な課題であり、今後は一般病棟での緩和ケアの推進が是非とも必要です。今年の春から徳島大学病院、市民病院の医師の卒後研修が開始されていますが、診療と教育を両立させるためには緩和ケア専門医の増員が是非とも必要です。[ホスピス徳島]と一緒に緩和ケアをやってくれる医師を募集しています。是非応募してください。

緩和ケア病棟長 荒瀬友子

看護師長

病院の移転と共に開設した緩和ケア病棟[ホスピス徳島]も多くの方に支えられ3年を迎えることができました。私たちは開設時より患者様・家族の皆様が少しでも安らげる時間を過ごせるようにお手伝いできればとの思いでケアに取り組んできました。開設当初は未熟なところも多々ありご迷惑をおかけしたこともあったと思います。いろいろな問題に直面しながら、その都度解決できるように話し合い、少しずつ体制を整えてきました。まだまだ十分ではなく課題もありますが、患者様・家族の皆様が安心できるような緩和ケア病棟を目指して体制作りをしていきたいと思ひます。

また3年間でたくさんの患者様・家族の皆様にお会いでき、いろいろな思い出と貴重な学びができました。私たちスタッフは、日々の患者様・家族の皆様との関わりの中で本や研修では得ることのできないことを学ばせていただき、少しずつ成長することができました。これからも出会いを大切に、患者様・家族の皆様「ここに来てよかった」と思っただけのようなケアが出来るように成長し続けていきたいと思ひます。

看護師長 谷田典子

緩和ケア病棟主任看護師(ホスピスケア認定看護師)

近年、癌患者の増加や更なる高齢化社会に伴い、21世紀は“死の時代”とも言われています。誰にでもいつかは訪れる人生の締め括りの時を、自分らしく穏やかに迎えたいと思うのは、多くの人に共通した願ひでしょう。当院でも時代のニーズに応え、2002年4月に県内初の緩和ケア病棟として[ホスピス徳島]が開設され3年が経過し、多くの患者様ご家族との出会いを通して、成長する事ができました。

私自身昨年10月から、ホスピス・在宅ホスピスにおける癌終末期患者と家族に対するホスピスケアの質の向上を図るために、ホスピスケアの基礎を学び、ホスピス・在宅における専門的知識・技術を習得するため半年間の研修に参加し、今年8月にホスピスケア認定看護師に合格することが出来ました。

今後、患者様の苦痛からの開放、日常生活を整えること、患者様とご家族の絆を深め、患者様が自らの人生の総括をし、死が訪れるまで積極的に生きていくために努力していきたいと思ひます。

緩和ケア病棟 主任看護師・ホスピスケア認定看護師 松岡由江

緩和ケア病棟副主任看護師

緩和ケア病棟で勤務し3年が過ぎました。答えのないホスピスでの看護に多くの疑問や不安を抱きながらも、その人らしい生活が送れるようにとの思いで看護してきました。しかし、患者様が退院し誰もなくなった病室を見ると「本当にこれで良かったんだろうか」「もっと私に出来ることはあったんじゃないか」と私自身が患者様の死を受け入れることが出来ず、ある本の中に書かれてあった「ホスピスケアの実践は、私たち看護師にとって自分の弱さを、何も出来ない自分をいつもいつも見せつけられる厳しさのある看護だと思ひます」という言葉の重みを身にしみて感じることがあります。

4年目を迎え、まだまだ未熟な部分も多く反省する毎日ですが、一つ一つの問題に突き当たりながらも患者様・ご家族の方々と共に笑い、喜び、時には一緒に涙を流しながら過ごす一日一日の日々を大切に、「患者・家族の心に寄り添うことの出来る看護」を提供できるよう一歩ずつ前進していきたいと思ひます。

緩和ケア病棟 副主任看護師 五百蔵千佳

管理栄養士

ホスピス徳島が開設して3年。私は開設と同時にこのホスピスにやってきました。

私自身、味覚を満足していただくことは患者様のQOLを高めると考えております。楽しく美味しく食べていただけるように、少しでもお手伝いしたく、この3年間無我夢中で突っ走ってきたように思ひます。

開設当初はまるで高校生が食べるようなボリュームで、食べるということが患者様の負担になり、ご迷惑をおかけしたこともありました。現在では患者様の症状や食欲に応じて盛り付け量を工夫しています。また家庭的な雰囲気をお大切に、季節を感じていただけるように、盛り付けにも工夫しています。

まだまだ反省すべき点は多く、試行錯誤の日々ですが、私たち栄養部の元気の源は患者様の喜びの声です。「今日もごちそう様。おいしかったよ。」そんな患者様の声を胸に私たちは今日もがんばります。

管理栄養士 南谷香織

作業療法士

「ありがとうございました」私は患者様に接したあと、お礼の気持ちを言葉で伝えるように心掛けています。懸命に生きる姿が、そして患者様に寄り添う家族やスタッフの姿が、私を自然にそういう気持ちにさせるのです。「死を大切にすることは生を大切にすること」と言われるように、まさに人の在りようが問われるホスピスにおいて、今まで様々な方々にお会いできたこと、そして学ぶ機会を与えてくださったことに感謝をしています。

ホスピスに関わるようになって半年、作業療法士としてホスピスで何ができるのか？自問自答を繰り返す毎日ですが、とにかく今出来ることを積み上げていこうと心に決め、患者様の待つお部屋に足を運ぶ毎日です。まだまだ未熟ではありますが、感謝の気持ちを忘れずに、患者様のお役に立てますよう、頑張りたいと思ひます。

作業療法士 森知子

ホスピス徳島行事



Spring

- ・雛祭りお茶会
- ・ミニコンサート
- ・お花見
- ・お花見お茶会
- ・端午の節句お茶会

Summer

- ・ミニコンサート
- ・七夕お茶会
- ・ほんま連訪問阿波踊り
- ・花火大会



Autumn

- ・お月見お茶会
- ・ミニコンサート
- ・秋の味わいお茶会
- ・家族会

Winter

- ・クリスマス会
- ・クリスマスコンサート
- ・餅つき
- ・節分お茶会



H16年度 研究発表等

- 日本内科学会総会 「緩和ケア病棟における傍腫瘍性精神神経症候群」 近藤彰(医師)
- 第5回中四国死の臨床研究会 「ホスピス徳島における末期癌患者の傍腫瘍性神経症候群の発症頻度とその臨床的意義」 荒瀬友子(医師)
- 第5回中四国死の臨床研究会 「ターミナル期における神経症状のある患者の看護」 富永恵美子(看護師)
- 第5回中四国死の臨床研究会 「ホスピス病棟における食事の工夫—彩り食について」 南谷香織(管理栄養士)
- 徳島緩和ケア研究会市民講座 「ホスピス徳島での取り組み」 富永恵美子(看護師)
- 日本臨床内科医学総会 「ホスピス病棟における傍腫瘍性神経症候群について」 近藤彰(医師)